

# 東部地区

人口	男	4,852人	女	5,034人	計	9,886人	世帯数	4,065世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

## 《事業概要【分野】と主な支出内容》

### ① 安全で安心なまちづくり事業 【防災】

12町ごとに防災マップ（水害編・地震編）を作成するため、実際に地区内を歩き、水害と地震を想定した危険箇所を地図上に落とし込み、実効性の高いマップを作成する。

自治会別マップ作成用地図印刷、自治会別防災マップ作成 水害編（4,340枚）  
自治会別防災マップ作成 地震編（4,295枚）

## 《収支決算》

### 【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	—	1,524,880	616,073	—	2,140,953
その他補助金	—	—	0	0	—	0
自己資金	—	—	0	0	—	0
計	—	—	1,524,880	616,073	—	2,140,953

### 【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	—	1,524,880	616,073	0	2,140,953
計	—	—	1,524,880	616,073	0	2,140,953

## 《事業への取り組みを振り返って》

安全で安心なまちづくり事業について、次のような計画に基づいて、地域の夢実現事業を導入し実施しました。

### 1 地域の現状・課題

#### ① 現状

東部地区は、市内の中心部を流れる黒川の東西の両側に位置する12町内で構成されています。内訳は、100世帯以下の町内は4町内、300世帯以下の町内は5町内、400世帯前後の町内は1町内、1000世帯以上の町内が2町内から構成されています。

#### ② 課題

平成27年9月に発生した関東・東北豪雨や、令和元年10月に発生した台風19号により、黒川や周辺の中小河川からは溢れた水により、床下・床上浸水の被害や、道路が冠水したため指定された避難場所へ避難することができなくなり、大雨が収まるまで、心理的に不安な状況が続く事態でした。

### 2 地域の夢実現事業の導入

東部地区各自治会としては、日常生活を通じて、「自分にできること」・「関心のあること」を、地域の方々に「アンケート調査」を実施し、身近な「防災」について、地域の一人ひとりがみんなと一緒にこの課題に取り組むこととしました。その中で、私たちの取り組む「防災」は、『自分の大切な人を守る』ことを念頭にし、地域の夢実現事業の導入を決定し、「防災マップ（水害編・地震編）」を作成することにいたしました。

### 3 事業計画の実施

2年間の継続事業として位置付け、事業計画を策定し実施しました。

#### ① 「防災マップ（水害編・地震編）」 令和元年度～令和2年度

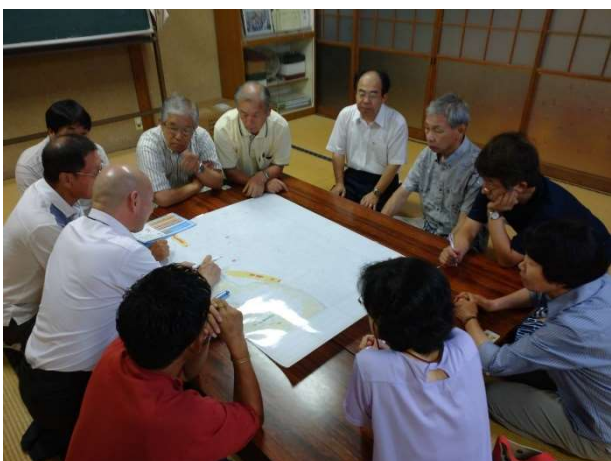
##### ア) 「防災マップ（水害編・地震編）」の特徴

- ・地域の安全情報と危機情報が一括して分かりやすく、理解できるようにしました。
- ・地域全体を視覚でとらえ、人や建物に被害を引き起こす発生の誘因やリスクを総合的に判断できるようにしました。
- ・行政を含めて、地域住民が共通認識をもてるようにしました。

##### イ) 「防災マップ（水害編・地震編）」作成研修会の実施

- ・東部地区の自治会や地域の各種団体に呼びかけ、マイ防災マップ作成の目的や作成方法の確認を実施し、「(株)ゼンリン」から専門の講師を招いて、12町内を5ブロックに編成し、ブロックごとにそれぞれの自治会や地域の各種団体の方々に「個別研修会」を実施し、災害時に即座に対応できる、「防災マップ（水害編・地震編）」作成に反映いたしました。

## ～防災マップ作成研修会の様子～



- ウ)「防災マップ（水害編・地震編）」の作成
- ・ 12町内が、個別に町内の「まち歩き」を実施することにし、事前に班編集・まち歩きルート決定・まち歩き図面・カメラ等を準備し行いました。
  - ・ 「まち歩き」を実施した目的は、具体的な避難軽減策を見つけ、避難時における危険箇所の認識に関する施策づくりを、住民自らが行うことにより、地域の防災力をアップすることができました。

## ～「まち歩き」調査の様子～



エ)「防災マップ（水害編・地震編）」の印刷・全戸配布

- ・住民の防災意識の向上・啓発を図るため、「防災マップ（水害編・地震編）」の「印刷・全戸配布」を、令和元年・2年度中に実施いたしました。
- ・各家庭では、見やすい箇所に「防災マップ（水害編・地震編）」を貼り、家庭で「防災」についての正しい心構えや、大切な人を守る解決方法を普段から話し合いながら、いざというときに、近所や地域の助け合いの精神がうまく機能できるように、環境を整備することができました。

### ～「防災マップ（水害編・地震編）」成果品～



**下野新聞にも掲載されました！**

② 今後の「防災マップ（水害編・地震編）」の活用について

今後は、域住民が自ら町を歩き、災害時の危険箇所や避難経路を地図上に落とし作成した、「防災マップ（水害編・地震編）」を活かしながら、地域防災力の向上に貢献していきたいと思っています。さらに、新しいノウハウを常に取り入れながら、将来にわたり継続していけるような、防災訓練を実施していきたいと思っています。